

常松大谷遺跡 つねまつおおたにいせき

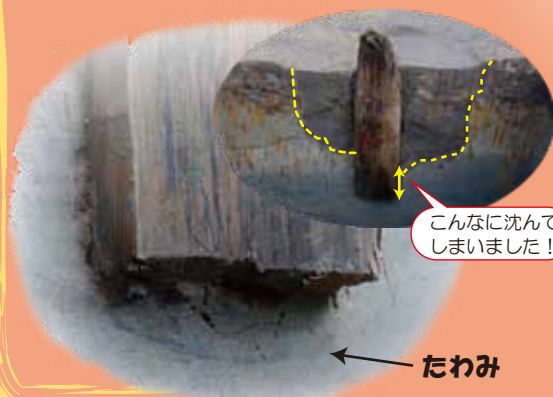
& 常松菅田遺跡 つねまつすがたにいせき



見えないところにもヒト工夫が！？

常松菅田遺跡で見つかった建物跡には、地面より上にあった建築部材（壁や床）は残っていませんでしたが、地面に穴を掘って柱を立てた跡「柱穴」がたくさん見つかっています。柱は、柱穴の中にじかに立て、土を埋め戻すことによって固定されますが、地盤がゆるいところでは、柱が動いたり沈んだりしないよう、様々な工夫をしていました。

例えばこの遺跡では、柱を立てる際に、柱穴の中に石を詰めたり板を敷いたりしているようすが見られました（右写真）。



しかし、中には失敗もあります。左写真のように、柱が穴（黄色の破線）の底より下に沈んでしまい、その下に「たわみ」ができています。

土地が思った以上に軟弱だったため、建物の重さに耐えきれず、沈んだのでしょう。

何事も、基礎固めが大事ということですね！？



下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき



ジグソーパズルより難しい？

現在、下坂本清合遺跡から見つかった土器の接合作業を行っています。接合とは、バラバラの破片の状態で見つかった土器をつなぎ合わせて、もとの形を復元する作業です。



数千点に及ぶ土器片について、形や色をヒントに1点1点くっつくかどうかを試していきます。

ジグソーパズルと違い必ず完成する、というものではないので、破片が繋がるとその喜びは格別です。



鎌倉時代（約800年前）の土鍋です。
全体の形を復元することによって、土器の作り方や使用方法などを検討することができます。



同じ土器でも色が違うのは、埋まっていた土の状態がそれぞれ異なるためです。
上級者向け？

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第55号 2013年11月22日

しもさかもとせいごう
下坂本清合遺跡で調査をしている鎌倉時代の河川跡からは、土器や木製品、動物の骨などの遺物が見つかっています。

今回はその遺物の中から少し変わった土器について紹介します。

平成25年度に発掘調査を行う遺跡の位置



ちゅうじょうどうたい 柱状高台を持つ土器について

高台とは、皆さんが普段使っている茶碗などの底に付いている台のことで、普通は右下の写真のように輪形に作られています。一方右上の写真の高台は、輪形ではなく中が詰まった円柱形に作られています。考古学ではこのような形の高台のことを、「柱状高台」と呼びます。

この柱状高台をもつ土器は、古代末から中世の限られた時期（約900～800年前）に全国各地でみられ、県内でも多く見つかっています。

右上の写真は下坂本清合遺跡で鎌倉時代（約800年前）の河川跡から見つかった柱状高台坏です。上の坏部分の底に凹みがあり、食物や飲み物を入れる器としてはちょっと使いにくそうです。

この土器の用途については諸説あります。灯明皿やろうそく立てとして使用されたという説や、器を載せる台（器台）として使用されたのではないかとする説もあります。写真の土器が見つかった河川跡からは、人形や舟形など、祭祀に関わる遺物が多くみつかり、この土器もお供え物のお膳の台として使われた可能性が考えられます。



下坂本清合遺跡出土 柱状高台坏

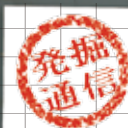


一般的な高台

（公財）鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太12番地

TEL：0857-51-7553
FAX：0857-51-7550
メールアドレス：
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com



11月2日土曜日に松原田中遺跡の現地説明会を開催しました！
秋晴れの爽やかな天候に恵まれ、132名ものお客様にお越しいただきました。ありがとうございましたo(^▽^)

発掘調査も残りわずかとなってきましたが、今後も調査成果をホームページでお知らせしていきますのでご期待ください！

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

桂見鍋山遺跡

かつらみなべやまいせき

空からパシャッ!!

先月号でお伝えした古墳時代の田んぼの様子を、ラジコンヘリコプターを使い空から撮影しました。空から撮影することで、調査区だけでなく湖山池などの桂見周辺の地形との関係も知ることができ、まるで鳥の眼を通して見ているようです。

調査では溝を掘って田んぼの下の確認をしましたが、泥炭層や自然流路の堆積が続くのみで遺構や遺物が見つからなかったため、調査をまもなく終了する予定です。

残りわずか、寒さに負けず頑張ります！



ラジコンヘリコプター出動!



空からみた桂見鍋山遺跡 (南東より)



良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

土器にドキッドキ♡

良田中道遺跡の発掘調査もいよいよ残すところあとわずか。調査の終盤を迎えているところです。調査区内では、縄文時代の川跡の近くから土器の破片が数多く出土しました。そのなかには奇妙な紋様を持つものや、元の形に復元できそうなものがあり、これからの整理作業では驚きの発見があるかもしれません。



金沢坂津口遺跡 & 松原田中遺跡

かなざわさかつぐちいせき

まつばらたなかいせき

遺構がびっしり!!

松原田中遺跡 3・4区の調査も進み、弥生時代と古墳時代の遺構の調査に取りかかりました。

右の写真は遺構を探しているようすです。黒色のシミのように見えるところが、建物の柱穴や溝などの遺構です。その数のすごいこと!! 遺構ではないところを探すのが難しいぐらいです。それだけたくさんの建物などが造られていたといえます。

ただ、これらの遺構は一時期に造られたものではありません。遺構の上にたまっていた黒い土からは、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて(約 2,200 ~ 1,700 年前)の土器が大量に出土しているので、この約 500 年分の遺構が重なり合って見つっていると考えています。

このように、たくさんの建物が長期間にわたって造られていることから、当時の人々のこの場所へのこだわりがうかがえます。今後、遺構の調査を進めて、その理由を明らかにしていきたいと考えています。



黒い色のところが遺構。たくさん出すぎです。掘るのがほんとうに難しい・・・。



遺構のほとんどが柱穴です。右の写真の柱穴には、木の柱の根元が残っていました。

松原田中遺跡 (1区)

まつばらたなかいせき

古墳時代の掘立柱建物を発見! v(^ ^)



見つかった3棟の掘立柱建物跡 (写真左が北)

建物4: 東西 3.9m × 南北 3.2m
建物5: 東西 4.0m × 南北 5.4m 建物6: 東西 4.6m × 南北 5.6m



調査区南東部で古墳時代後期(約 1,500 年前)の掘立柱建物跡が3棟見つかりました。建物6が一番新しく、いくつかの柱穴には直径 20 cmほどの柱が残っていました。建物5は建物6と規模や柱穴配置がほぼ同じなので、建物5→6の順に建て替えられたのかもしれない。建物の大きさから考えて、倉庫ではないかと推測しています。

松原田中遺跡から約 700m東側に位置する松原古墳群では、同じ頃古墳が発掘調査されています。古墳にはこのムラのリーダーが眠っていたのでしょうか。